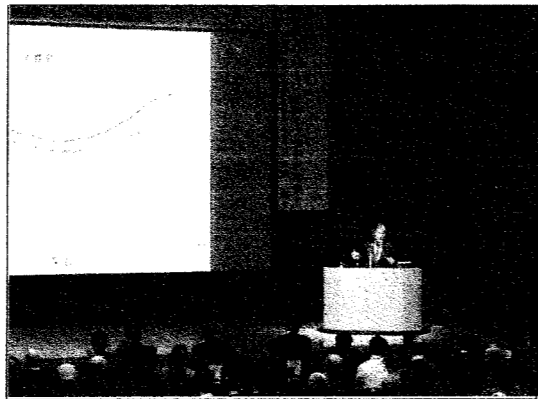


リレー記事 No.93

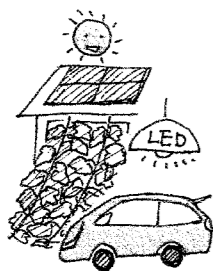
「プラチナ社会」ってなんだろう？

先日、「九州エコライフポイント」推進フォーラムに出展した折に、三菱総合研究所の小宮山宏氏の講演を聴きました。

小宮山氏によると、私たちは、人類史上、農業革命、産業革命に次ぐ転換期に生きています。現在、先進国と言われる国々では一般市民が衣食住、移動、情報、長寿を手に行き渡るだろうと予測されています。今後は、量的豊かさから人生の質（QOL:Quality of Life）が求められ、それを実現する社会をプラチナ社会と名づけられています。豊かになればなるほど深刻化する問題として、環境問題、高齢社会問題、雇用問題などがあり、日本は既にそれらに直面している課題先進国だと説かれます。一見、問題はマイナスイメージですが、長期計画でメリットに換えることも可能であり、問題解決策として、省エネ、再生可能エネルギー、森林資源活用や廃棄物の資源化、また、医療や介護のサービスとそれに伴う新しい製品などの需要が生まれ、新たな産業が必要とされると予測しておられます。さらに、個人の暮らしの質をあげるためには、地域ごとにきめ細かな対応が求められるため、私たち市民が主体的に関わり、自治体や企業と連携していくことが求められます。この課題解決の先に持続可能で快適なプラチナ社会があり、その効率を高めるためのプラチナネットワーク構想を提唱しておられ、既に進行中とのことでした。



▲日本「再創造」
～豊かなエコライフが拓くプラチナ社会～



また、小宮山氏は、自宅を高断熱にして、太陽光電池、高効率給湯器・最新のエアコンや冷蔵庫やLEDを取り付け、ゴーヤカーテンを育てたりしてエコハウスで暮らすという実証実験をしておられ、ハイブリッドカーの使用を併せると、それまでの消費エネルギーのおよそ8割も削減できたそうです。

すでに、私達人間の経済活動と地球の自然資源のバランスが崩れて様々な環境問題がおきていますが、日本人と同じ生活を世界中の人がすると、地球2.3個分が必要になるとも言われています。現在、途上国とされる国々が発展したら地球環境はどうなるのか、と心配をする人もいますが、講演を聴いてちょっと未来が明るくなりました。また、プラチナ社会では、高齢になっても能力や年齢に応じて誰もが働くことができ、コミュニティへの所属意識や人の役に立っているという実感を持つことができるシステムが作られるということで、新しい価値観への対応が必要となりそうです。豊かなエコライフに柔軟に対応できるよう、まず、健康でエコな暮らしを持続したいものです。

《Ms. W》

未来を創るインタビュー

No.35 特定非営利活動法人 これからの学びネットワーク 理事 河野 宏樹 氏

昨年10月から1月まで開催された『ちょっとしたコツで広報力アップ』伝わる広報実践スクール』（全7回）に参加しました。その企画運営をされたのが広島NPO法人『これからの学びネットワーク』の河野さんです。

『これからの学びネットワーク』は、参加体験型の学びの場を企画運営することを通じて、これからの“人づくり”を促進することが、団体のミッションです。子ども対象の自然クラブ、探検クラブ、英語クラブ、ことばクラブや、大人対象の指導者育成講座を開催されています。河野さんご自身は、コミュニケーションとしての国語や英語を大切にされています。受験対策で答えを出すことに一生懸命な子ども達は、主体的に学ぶという気持ちが薄くなっていると感じるそうです。そこで参加体験型の学びの場を提供したいと思われているのだそうです。

今回の研修では、プロのライターやカメラマンによる講義・演習やプレスリリースの書き方の講義、福岡市の環境NPO事務所での広報物作成など、広報に携わる者にとって、とても魅力的な内容の講習会でした。

Q. 未来のために今何が重要だとお考えですか

A. 他人任せじゃなく、自分がやるという人を育てる。
主体的な人を育てる。

未来を創るメッセージ

自分で 仲間とやってみよう！

細身の河野さんは、最初とっつきにくい雰囲気でしたが、はずかしそうな笑顔が印象的な志のある若者でした。『学びは、学ぶ側の姿勢が大切、学びたいという気持ちが高いほど、その人の伸びしろは大きい』とのこと。私は広報実践スクールに学びたいと食欲に考えて参加したので、学びの形としては河野さんの思いとベストマッチですね。

▲撮影はプロのカメラマン菊井博史さん



《ひら》



仮認定 NPO 法人

〒811-3114 福岡県古賀市舞の里5-24-13
TEL/FAX 092-944-6450 [mail]eco_ecoken@ybb.ne.jp
[HP]http://www.10.ocn.ne.jp/~ecoken



次回のぼらんず ※ぼらんずとは、毎月の清掃ボランティア活動です。

3月4日(火) 15:00~1時間程度 エコロの森周辺



「しろくまカフェ～しろくまプロジェクトが子ども達に贈るもの～」開催しました。

2月9日（日）午後、本年度開始した*しろくまプロジェクトの報告と交流会（しろくまカフェ）を開催しました。お集まりいただいたのは、高校生から70代までのエコけんゆかりの29名の皆さまです。

しろくまプロジェクトを開始するに至った経緯、本年度の様子などをご報告したあと、全員でしろくますごろくを楽しみました。その後、しろくますごろくをパワーアップするおもしろい意見をたくさんいただき、来年度の改訂が楽しみになりました。いろいろな立場の方が同じテーマで自由に交わり、想定を遙かに超える楽しさと創造が生まれる様子にわくわくしました。そしてまわりの温かいおとなの存在こそが、子ども達への一番の贈りものなんだと改めて思いました。



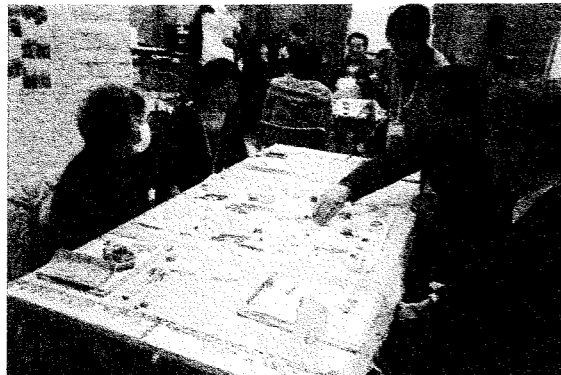
寄付についての考えを語りました。

「しろくま教室の子ども達は、直接会ったこともないおとなに守られていると感じたようです。」という言葉に感動しました。
(ecoとも-寄付とも)



エコけんの発会当時から支援をいただいている賛助会員の金子さんから、応援メッセージ！

みなさんにしろくますごろくを楽しんでもらいました。



参加者を楽しませるだけでなく役に立つ情報も提供して、皆さんに満足して帰ってもらうばかりか、エコけんにもちゃんと収穫があるような企画で、さすがだと感心も致しました。
(賛助会員)



子ども達の感想やようすを展示しました。



今日はいろいろなエコを知りました。ガスでお米を炊くのは、炊きあがる時間も早いらしいなと思いました。お味噌汁は、だいこんの葉っぱもむだなくつかえたり、ポットのお湯でできるから早くエコだし、簡単で、今度やってみようと思いました。今日は、知らなかったいろいろなエコを知れてよかったです。寄付してくれた方、ありがとうございました。

(香椎小学校5年生の感想文より)



終了後、手づくりスイーツなどで歓談しました。



いつも学校でお世話になっています。お世話になってばかりで、学校が何かできないかと思って参加しました。4年生と「ふくまっ子まつり」では、子ども達の体験を増やすために良きアイデアを出し合ひましょう。自分は何ができるのか…考えさせられる時間でした。ありがとうございました。
(先生)

※しろくまプロジェクトとは



おとなから、未来を担う子ども達へ、小学校での「体験型環境教室（しろくま教室）」をプレゼントする企画です。環境教育の推進はもちろん、寄付による社会貢献・社会参加を推進することを目的に活動に取り組んでいます。

エコショップニュース

福津市では、環境保全行動促進のためのおもしろい取り組みがおこなわれています。

福津市独自の福津市版ISOをつくり、一定数の項目をクリアすると『福津市エコショップ』と認定される制度です。43の審査項目のうち3項目クリアが条件になります。登録事業者を増やす事で消費者とともに環境保全活動を広げるためにクリア項目を少なくしているのです。行政と、事業所と市民が一体になって、地球温暖化防止への取り組みに福津市の大人達も動きだし始めました。

今年新たにエコショップ認定の旗が完成しました。福津市内ではこの旗が店頭にはためく予定ですので皆さん福津へいらっしゃるときには是非その旗を見つけてくださいね。

《N. N》

この旗を目印に来て下さいね。

